

私たちは「コロナ」を必ず乗り越えることができる 「偏見」・「差別」につなげない

2学期が始まり2週間が過ぎました。長い2学期になりますが、一人一人の子どもたちを成長させることができるよう、教職員一丸となり教育活動を推進していきます。今学期もどうぞよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルスの感染者数は東京都などの首都圏や大阪府、それに福岡県など都市部での増加と共に、全国的にも感染は拡大傾向となっており、感染経路が不明の場合も散見されています。感染症防止対策と社会経済活動を両立させているわけですから、感染者が増えてこないかと心配していましたが、これだけ感染者が拡大すると誰もが不安になるのは当然のことだと思います。

その不安から、感染した人を特定しようとすることや、誹謗・中傷するようなことも起きているのも事実です。感染症ですから、どんな予防対策をしても感染することもあります。今の状況を考えれば、いつ誰が感染してもおかしくはありません。これから私たち嘉穂小学校の教職員や保護者の皆様、子どもたちが感染することもあるかもしれません。大切なことは、**感染することは「悪いこと」ではない**ということです。怖いことは、**それが偏見や差別につながる**ことです。

もちろん、私たち一人一人、感染しない、させないために「**3密を防ぐ**」「**マスク着用**」「**手洗いの徹底**」等の対策をとることは大切です。それと同時に「**心の対策**」をとる必要があります。日本赤十字社のホームページに「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！」というページがあります。その内容を子どもたちにわかりやすく紙芝居にしました。その一部を抜粋して紹介させていただきます。



ウイルスの3つの顔（紙芝居）

この新型コロナウイルスとの戦いは長期戦になるかもしれません。私たち一人一人はとも弱い存在です。ともすると、不安から左記のようなことをしてしまいがちです。しかし、私たちが強い絆でつながり合えば、必ず乗り越えることができると信じています。

「感染症防止対策」と「心の対策」をとり、コロナ感染からしっかりと身を守るとともに、偏見や差別につながる弱い心にも断固として負けないようにしましょう。

「だれだって、いつだって感染するかもしれないから」…思いやりと正しい行動を

「児童生徒等や学生の皆さんへ」のメッセージ（文部科学大臣より）の中で、誰もが新型コロナウイルスに感染する可能性があること、感染した人に思いやりの気持ちを持つことなどが書かれています。以下のような取組を行い、感染症に対する正しい認識と対応の仕方について学習を行います。（実施期間：9月1日～4日 全学級）

- ① 「差別や偏見」の防止についての授業 「ウイルスの3つの顔」（紙芝居）
- ② 文部科学大臣メッセージ「児童生徒等や学生の皆さんへ」を活用した学習



人権教育担当教員と学級担任からコロナに対しての正しい対応を学習する3年生

感染した人や症状のある人を責めるのではなく、思いやりの気持ちを持って対応できるよう、同様の内容の話を機会に応じて行っていきます。ご家庭でもお配りしましたメッセージなどをもとに家族でお話をする機会をつくっていただければと思います。

だれだって、いつだって

かんせん
コロナに感染するかもしれないから

おも
思いやりの。
マスク着用。
てあら
手洗い。

さべつ
差別や
へんけん
偏見

ゆる
しない
さ
さない

みつ
3密をさける。

学習後の児童の感想（3年生）

- 私は、ウイルスの3つの顔というお話を聞いて病気や不安、いじめ、さべつということを知りました。世界の人たちといっしょにがんばっていきたくて思いました。思いやりをもとうと思えました。
- 私は家族がコロナになったらどうしようと思っていたけど、金澤先生の話聞いて、気づく力、聞く力、自分をささえる力などを教えてくださったので不安がなくなりました。いじめやさべつをしないようにしたいです。コロナにかかった人にちくちく言葉やいじめたりしないようにしようと思えました。みんながんばっているから私も何か自分ができることをしていきたいと思えました。

全校で心を一つに取組めます！
（校内掲示ポスター）